

梅雨が明けたと思ったら大雨の連続でした

地球温暖化の影響か、異常気象が続いた7月でした。名古屋は大丈夫ですが、九州、東北辺りは大雨で大変な状況になり、この先も心配です。

さて、ののかぜの子どもたちは雨がふってなければせつせとプール遊びを楽しみました。今年は乳児側にも大きいプールを購入し、たんぼぼ・すみれ組の子どもたちは先生たちと一緒にプールに入って水遊びを楽しんでいます。幼児クラスもそら・やまと時間差をつけてプール遊びを楽しんできました。



全国保育団体合同研究集会 in 高知にぜひ参加を

今年度で第54回目となる「全国保育団体合同研究集会」(保育合研^{ほいくごうけん})が今年度は8月20, 21日に高知県で開催されます。スローガンは「学ぼう、語ろう、つながろう 子どもの命と育ちと平和のために」です。例年各地で実行委員会を持ち開催してきましたが、コロナで2020年度より、オンラインでも参加できるようになりました。

保育合研は今から54年前に長野県山ノ内町で、全国の保育関係者が集い、日ごろの保育の実践や悩み、保育所作りのことなどを出し合い、お互いに学びあい、そしてまた来年この地でまた会おうと始まりました。

この「合研」は、保育者や研究者たちだけではなく、多くの保護者の方も参加し、いろいろな角度から保育を良くしていこう！国の保育政策を良くしていこう！と語り合っています。

参加方法は保育園の各クラスに掲示してあるパンフをご覧ください。職員に声をかけてください。

「へいわ」について考えよう



6月21日から23日、オーストリアの首都ウィーンで、核兵器禁止条約第1回締約国会議が開かれました。会議には80カ国以上が議論に加わりました。「核なき世界」の実現を目指すこの会議は、核兵器は「人類の存亡に深刻な影響を与える」と強調する政治宣言と締約国の今後の方針をまとめた50項目の行動計画が採択されました。

しかし、唯一の被爆国である日本政府は相変わらず「核保有国との橋渡しをする」との理由をつけて参加はしていません。

ウクライナに軍事侵攻したロシア（プーチン大統領）は、核の使用をちらつかせていますが、本当に核攻撃を行ったらどれだけ甚大な被害が出るか考えると恐ろしくなってきます。

核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）のベアトリス・フィン事務局長は「不参加では橋渡し役にはなれない」「『核の傘』に入る国も締約国会議に参加しているのは、国際法の重みと期待があるから」と述べています。

この会議の事務局長でオーストリア外務省のクレメント軍縮局長は、「条約はまだ新しく締約国も少ないが、非人道的な結末をもたらす核兵器を拒否した意義にこそ希望があり、世界が変わる可能性を信じている」と述べています。

日本政府も核兵器禁止条約に署名・批准をする、そんな努力をしていくことを願っています。

8月5日（金）は子どもたちと「へいわ」について考え合う機会を計画しています。

終戦から77年が経ち、戦争体験を語り継ぐ人たちが高齢化し、子どもたちにとって（大人も）戦争をイメージすることがだんだんと難しくなっています。そうした中、次の世代を生きる子どもたちと戦争はぜったいあってはならないことを考え合える機会を作りたいと思っています。